

## 1 # \*\*設定集：その他(中立要素、社会背景、各話の小道具)\*\*

2  
3 (これまで「味方側」「敵側」のアイテム・設定を整理しました。本パートでは、それらに属さない\*\*中立・社会背景\*\*や、\*\*各話で登場する小道具\*\*などをまとめます。)

4  
5 ---

## 6 7 ## \*\*1. 中立・社会背景の設定\*\*

### 8 9 ### (1) \*\*社会情勢: “DXブームと脆弱性の表裏”\*\*

#### 10 - \*\*概要\*\*:

- 11 - 日本全体が業務効率化やIT活用を急ピッチで進める「DXブーム」の真っ最中。
- 12 - しかし官民間問わず急造システムが増え、セキュリティや運用面が追いつかない“脆弱性”が蔓延している。

#### 13 - \*\*特徴\*\*:

- 14 - 政府主導の“デジタル庁” or “DX委員会”が設置され、メディアでも盛んに取り上げられている。
- 15 - 企業によっては「とりあえず導入」を優先し、トラブルが多発。

#### 16 - \*\*物語演出\*\*:

- 17 - 各話でクライアント企業が「とにかく急いでDXしたい」という状況で、チームが火消し役に回る展開。
- 18 - 敵勢力もその“混乱”を突きやすいと判断し、攻撃のターゲットにしている。

### 19 20 ### (2) \*\*SNS・メディアの動向\*\*

#### 21 - \*\*概要\*\*:

- 22 - SNSでのバズが企業や官公庁の評判に直結。
- 23 - 一方、フェイクニュースや“サイバー炎上”が頻発し、真偽不明の情報が拡散しやすい。

#### 24 - \*\*設定細部\*\*:

- 25 - 主要SNSは「SkyTweet」「FaceWorld」的な名称（作中独自の呼称）。
- 26 - 「バズれば勝ち」「炎上リスク」で企業が右往左往。

#### 27 - \*\*物語演出\*\*:

- 28 - 中盤(3～6話)でスパイが情報漏洩→SNSで拡散され、スタートアップが大ダメージを受ける。

29 - 終盤(9～10話)で官公庁システム障害がSNSで騒ぎになり、市民の混乱を煽る描写を入れる。

30

31 ### (3) \*\*大学や研究所の存在\*\*

32 - \*\*概要\*\*:

33 - 橘（新人エンジニア）が卒業した情報系大学、月城が関わる量子暗号研究所などがある。

34 - 物語には直接登場せずとも、回想シーンや外伝的エピソードに使える。

35 - \*\*ポイント\*\*:

36 - 名前: 「国立先端技術大学」「量子暗号ラボQ-TEC」など。

37 - 学生時代のコンテスト記録、研究成果が作品内で活かされる。

38 - \*\*物語演出\*\*:

39 - 2話や3話あたりで橘が「大学時代に開発したAI」を改良している伏線。

40 - 後半(7～8話)で月城が研究者仲間に連絡、量子暗号の弱点をヒントにする等。

41

42 ---

43

44 ## \*\*2. 各話の小道具・エピソードアイテム\*\*

45

46 ### \*\*第1～2話: 老舗和菓子店編\*\*

47 1. \*\*和菓子店“暖簾”\*\*

48 - 祖父が誇りにしている家紋入りの暖簾。ECサイトのイメージ写真にも使われる。

49 - 不正アクセスで商品名が改ざんされ、“暖簾に泥を塗られる”象徴として登場。

50 2. \*\*在庫帳簿 & ノーコード開発画面\*\*

51 - アナログ帳簿（手書き） vs モダンUIの対比。新人たちが「あれ？ 在庫帳と連携がうまくいかない…」と格闘。

52 - 改ざん事件で在庫データが混乱→主人公が解決して初回の成功体験。

53

54 ### \*\*第3～4話: スタートアップAI企業編\*\*

55 1. \*\*白いボードに付箋だらけのアジャイル管理ボード\*\*

56 - ベンチャー企業の会議室風景。タスクカードが大量に貼られ、スプリントレビュー用。

57 - スパイ疑惑エピソードで“付箋が勝手に抜き取られた”“コードリポジトリに不審コミット”など発生。

## 58 2. **“Next Frontier”のアプリ試作UI**

- 59 - デモアプリのタブレット画面、AIチャット機能の簡易UI。
- 60 - 企業スパイが導入したバックドアで、一部データを外部へ転送している描写。

61

## 62 ### **第5～6話: 鹿島裏切り・家庭関連アイテム**

### 63 1. **鹿島の“家族写真”**

- 64 - 妻&娘と写った写真。鹿島の机の引き出しやスマホ待ち受けなどに。
- 65 - 人質設定の重要モチーフ。「これを見て苦悩する鹿島」の定番シーン。

### 66 2. **脅迫封筒orメモ**

- 67 - 宗方やカトリニューから“家族の安全はあなた次第”と書かれたメモが届く。
- 68 - さりげなく差出人不明にされているが、読者は敵勢力だと察する。

69

## 70 ### **第7～8話: 再起への道**

### 71 1. **CIA時代の資料（CIPHERの引き出し）**

- 72 - “Project ATLAS”関連の英文ファイル。CIPHERが夜中に眺めている。
- 73 - 月城だけが知る封印された秘密。終盤に取り出して伏線回収。

### 74 2. **暫定官公庁セキュリティ向けIDカード**

- 75 - チームが緊急対策のため発行してもらう特別カード。
- 76 - “暫定入庁許可証”で、橘&白石も一時的に官公庁サーバールームへ入れる設定。

77

## 78 ### **第9～10話: 最終決戦アイテム**

### 79 1. **官公庁サーバールームの緊急停止スイッチ**

- 80 - 物理的な大型スイッチで「最終手段でシステムを落とす」という選択肢。
- 81 - 鹿島が内部から発動しようとする or CIPHERが止めるなどドラマティックに使える。

### 82 2. **“Quantum Seal”プロトタイプ**

- 83 - 月城がかつて研究していた量子暗号基盤の一部。
- 84 - 終盤、AI診断を防御する際に使われる or 敵の攻撃を跳ね返す鍵。
- 85 - CIPHERと月城の“強力な切り札”として物語を締めるポイントに。

86

87 ---

88

## 89 ## **3. その他の小ネタ・要素**

90

91 1. **\*\*ニュース番組 “Morning TechWatch”\*\***

92 - 作品中で度々登場するニュース。DX関連やサイバー事件を報道し、読者に現状を把握させる。

93 - “キャスター”は情報感度高いが、時にフェイクニュースを流す展開も。

94

95 2. **\*\*オフィスチェーンカフェ “Byte Café” (全国展開版)\*\***

96 - 味方企業本社だけでなく、全国のIT街やビジネス街に出店しているフランチャイズ。

97 - キャラが出張先でも同ブランドのカフェに入り、共通の世界観を演出。

98 - 敵側もそこを利用していたり、意外な繋がりが生まれる伏線に。

99

100 3. **\*\*スピンオフ予感アイテム\*\***

101 - “メモリアルバッジ”や“特別招待状”など、いずれ別エピソードに発展しうる物をさりげなく登場させる。

102 - 読者が「これ、後で何かあるのかな？」と想像を膨らませる遊び。

103

104 ---

105

106 # **\*\*まとめ\*\***

107 - **\*\*中立設定・社会背景\*\***: 日本全体のDXブームやSNSの影響を物語下地にし、急造システムの脆弱性を突かれやすい社会状況を描く。

108 - **\*\*各話の小道具\*\***: 1～2話（和菓子店の暖簾、在庫帳簿等）、3～4話（スタートアップのアジャイルボードなど）、5～6話（鹿島家族写真、脅迫メモ）、7～8話（CIA資料、官公庁特別ID）、9～10話（官公庁緊急停止スイッチ、量子暗号試作品）が舞台を彩る。

109 - **\*\*ニュース・カフェ・フランチャイズ\*\***: 世界観を一貫させるための定番小道具。キャラの移動や情報収集に自然感を持たせる。

110

111 これで**\*\*「その他(中立要素、社会背景、各話の小道具)」\*\***の設定まとめは完了です。以上で味方側・敵側・その他の設定集が揃い、全体のアイテムや舞台が整いました。お疲れさまでした！